



様式第 8 号 (第 6 条関係)

平成 28 年 3 月 31 日

薩摩川内市議会

議長 上野 一誠 様

(会派代表者経由)

会派の名称

たつみ会

経理責任者氏名

永山伸一



政務活動費に係る収支報告書

薩摩川内市議会政務活動費の交付に関する条例第 8 条の規定により、次のとおり、平成 27 年度政務活動費に係る収支報告書を提出します。

1 収入

政務活動費

720,000 円

2 支出

(単位：円)

科 目	金 額	備 考
調 査 研 究 費	639,808	5/12~14 徳島県上勝町・神小町
研 修 費		1/26~28 中根早伊江村・那覇市
資 料 作 成 費		3/28~29 大分県九重町・大分市
資 料 購 入 費	3,024	議員火傷
広 報 費		
広 聴 費		
要 請 ・ 陳 情 活 動 費		
会 議 費		
人 件 費		
事 務 費	16,643	事務用品(77311他)
合 計	659,475	

3 残余の額

60,525 円

- 注 1 備考欄には、主たる支出の内訳を記載すること。
- 2 領収書、活動報告書その他必要な書類を添付すること。
- 3 会派に属さない議員の場合は、「会派代表者経由」の必要はないこと。
- 4 会派に属さない議員の場合は、「会派の名称」は記入しないこと。
- 5 会派に属さない議員の場合は、「経理責任者氏名」とあるのは「議員の氏名」と読み替えること。

平成28年 3月31日

薩摩川内市議会  
議長 上野 一誠 様

会派の名称 むつみ会  
代表者名 大田黒 博



活動報告書

1 調査研究事業

**【第1回政務調査】**

(1) 調査年月日

平成27年5月12日（火）～平成27年5月14日（木）3日間

(2) 調査参加者

大田黒博、宮里兼実、永山伸一、福元光一（4名）

(3) 調査先及び調査項目

徳島県上勝町

「葉っぱビジネスについて」「廃校施設の活用について」

徳島県神山町

「NPO法人グリーンバレーの取組について」

(4) 調査の概要

別添視察報告書のとおり

**【第2回政務調査】**

(1) 調査年月日

平成28年1月26日（火）～平成28年1月28日（木）3日間

(2) 調査参加者

大田黒博、宮里兼実、永山伸一、福元光一（4名）

(3) 調査先及び調査項目

沖縄県伊江村

「離島における農業・畜産業・水産業の振興策について」

「離島における観光振興策について」

沖縄県那覇市

「産業支援センターの施設概要及び取組について」

(4) 調査の概要

別添視察報告書のとおり

### 【第3回政務調査】

(1) 調査年月日

平成28年3月28日（月）～平成28年3月29日（火）2日間

(2) 調査参加者

大田黒博、宮里兼実、永山伸一、福元光一（4名）

(3) 調査先及び調査項目

大分県九重町

「地熱とバイナリー発電の現状と取組について」

大分県大分市

「LNG発電の現状と取組について」

(4) 調査の概要

別添視察報告書のとおり

# 会派視察報告書

平成 27 年 5 月 18 日

薩摩川内市議会  
議長 上野 一誠 様

むつみ会  
代表 大田黒 博



1. 調査年月日 平成 27 年 5 月 12 日(火)～5 月 14 日(木) 3 日間
2. 調査地 徳島県上勝町・神山町
3. 参加者 大田黒 博 宮里兼実 福元光一 永山伸一
4. 調査事項 [上勝町]  
葉っぱビジネスについて  
廃校施設の活用について  
[神山町]  
NPO法人グリーンバレーの取組について
5. 上記の概要は、以下のとおりでした。

## 記

- 1) 5 月 12 日 (火) 移動日  
5 月 13 日 (水) 徳島県上勝町
  - ・彩事業視察 (葉っぱビジネスについて)  
彩 (いろどり) 事業とは、もみじ、柿、南天、椿の葉っぱや梅、桜、桃の花などを調理のつま物として商品化したもので、昭和 61 年、当時 J A 職員であった横石氏の発案で始まり、高齢者を中心に思わぬ波及効果があり、現在年商 2 億 6 千万円程度を売り上げている。
  - ・廃校施設の活用について  
学校統合により廃校になった旧福原小学校校舎等の改修工事を進め、若者定住を促進して現在ほぼ満室である。町営住宅として一般のアパートと同じ環境にあり広々として、

また入居条件も緩和されていた。

2) 5月13日(水) 徳島県神山町

・NPO法人グリーバレーの取組

神山町のNPO法人グリーバレーでは、古民家を買取りまた元縫製工場を買取り改修して、ワーキングスペース(共同の仕事場)として利用し、地域発の先進的なサービスビジネスを生み出している。

都会から地方の自然豊かな環境の所に共同の仕事場を設けて、情報技術、デザイン、映像関連等のクリエイティブ産業の集積を図るとともに、起業家やその支援者、地域住民との交流を通して地域採用が生まれ新たな価値の創出を目指していた。

6. 所感

30年前に(株)いろどりを立ち上げ、町と高齢者に夢を与え、50%の高齢化率を吹き飛ばすほどの活性化ビジネスに成長させ、町に変革をもたらしている様は圧巻さえ感じた。特に高齢者が扱う機材が、無線ファックス(1992)からパソコン(ウィンドウズ、1998)そしてタブレット(2011)への進化に感銘を受けた。

人口2,000人足らずの町に廃校施設を改修し、都会より人を呼び込む発想、立案に驚き、企業とマッチした運営が大きな興味となった。

古民家を活用し、大都市に本拠を置く企業が進出するポイントを求め、IT通信網をうまく活用すると同時に、地元と関連企業との連携に素晴らしさを感じた。今後再視察したい。

# 会派視察報告書

平成 28 年 2 月 10 日

薩摩川内市議会  
議長 上野 一誠 様

むつみ会

代表 大田黒 博



1. 調査年月日 平成 28 年 1 月 26 日(火)～1 月 28 日(金)
2. 調査地 沖縄県伊江村・沖縄県那覇市
3. 参加者 大田黒 博 宮里兼実 福元光一 永山伸一
4. 調査事項 [伊江村]
  - \* 離島における農業・畜産業・水産業の振興策について
  - \* 離島における観光振興策について[那覇市]
  - \* 産業支援センターの施設概要及び取組について
5. 上記の概要は、以下のとおりでした。

## 記

1)

1 月 26 日 (火) 沖縄県伊江村 移動日  
1 月 27 日 (水) 沖縄県伊江村

### 伊江島の概要

沖縄本島の北部、本部半島から北西 9 km の洋上に位置する一島一村の離党「伊江島」。島の面積は 22.77 平方 km で、人口約 4,800 名の小さな島で、サトウキビや葉タバコ栽培、花卉園芸。畜産など第一次産業が盛んな地域である。4 月には伊江島一周マラソン大会、ゆり祭りの二大イベントが続き、2 月にはハイビスカス祭りを開催し、イベントによる地域の活性化に取り組んでいる。平成 15 年度から本土の中高生を中心とした民家体験宿泊

も順調に伸び、観光産業と成り立っていると同時に、村民の生活を豊かにしている。また企業努力によって、サトウキビを原酒としたラム酒の開発や伊江島産小麦を使用した菓子類などの特産品開発を手がけ、村ぐるみで地域認知向上を目指している。

## 1. 花の島づくりについて

伊江村は「夕日とロマンのフラワーアイランド」をキャッチフレーズに四季折々の花による島づくりを展開し観光振興及び地域の活性化に取り組んでいる。

### ☆伊江島ゆり祭り

毎年4月下旬からGWにかけて、島の北側に位置するリリーフィールド公園においてゆり祭りを開催している。同公園は鉄砲ユリが自生する場所であるが道路等の整備がなされていないためふるさと創生事業を活用し公園整備を行った。平成8年度に第1回ゆり祭りを開催。平成27年度には第20回のゆり祭りを開催した。8,600㎡の広大な敷地に広がる真っ白なテッポウユリ、そして世界のゆり75品種が咲き誇り、青い空と海、ハダ植物群落とのコンストラスは絶景である。祭りの期間中には約3万人余の来場者でにぎわい、交通機関や宿泊施設、食堂等の経済効果も大きなものがある。

### ☆ハイビスカス祭り（チューパンじゃ祭り）

12月から5月ごろまでが見ごろのハイビスカス、約1,000種類のハイビスカスが次々と開花し訪れる観光客をいやしてくれる。

### ☆フラワーアイランド推進協議会

家庭から地域そして公共施設へと花作りの輪を広げ、伊江島を四季折々の花で来訪者を迎える島を目指し、地域住民参加型、協働によりフラワーアイランド作りを推進することを目的に平成23年度に協議会を設立、毎年研修会を開催し、意識の高揚を図っている。

## 2. 民家体験宿泊事業について

伊江島観光協会では平成15年度に4校317名を受け入れ、平成17年度には村内業者も民泊事業に参画し、順調に伸びてきている。わずかな時間であるが向け入れ民家による様々な体験や家庭と離れた生活を通して、子供たちの成長がうかがえる。受け入れ民家との交流も継続され、リピーターも訪れている。平成26年度には333校、約50,000人を受け入れた。民家体験泊一つの地域認知向上にもつながっている。

## 3. 修学旅行の誘致について

民家体験泊事業については、東京で開催されるコンテンツフェアへの参加や旅行業者への誘致活動を展開している。県内小学校については毎年各学校を訪問し、誘致活動を展開している。

## 4. 地域認知向上について

平成22年度に調査して伊江村観光統計実態調査によると沖縄県内の離島における認知

度は 40%未満であり、本土の物産展等において調査をすると認知度はかなり低く、認知向上に向けた取り組みが課題となっている。現在は沖縄県の支援を受けながら物産展への参加や伊江島イメージキャラクター「タッチゅん」に活躍してもらい、認知向上に努めている。さらには「沖縄県伊江島」という意識を高めるため、のぼり旗には位置図や写真を入れてPRをするように心がけている。

## 5. 特産品の開発と生産の取り組みについて

(株)伊江島物産センターにおいては、湧出(ワジ)の水を使用したイェソーダの開発、島の特産品「らっきょう」を材料としたらっきょうドレッシング、ギョウザ、サトウキビを材料としたラム酒の開発と自主製造のほか、近年は伊江漁協と企業の連携による「いか墨じゅうしいーの素」「いか墨ぎょうざ」「もずくゼリー」の開発も積極的に行っている。その他村内業者においても独自商品の開発を手掛け、島の特産物を活かした第6次産業も急激に進展している。

## 6. 所感

行政においては、沖縄振興特別交付金(一括交付金)により観光施設などハード面、ソフト面の事業執行を行い、観光振興及び発展を目指してきている。また民泊体験泊や修学旅行と連動し、伊江漁協観光部会の海洋体験や伊江島ホースパークの乗馬体験等のプログラムを充実させ、「離島伊江島だからできる」というブランドの確立を関係機関と目指し、村の発展を推進したいとのことであった。沖縄という特殊事情もあるが、本市も「薩摩川内市だからできる」ものも数多くあるのではないかと。今後の課題としたい。

2)

1月28日(木) 沖縄県那覇市

沖縄産業支援センター

沖縄産業支援センターは、沖縄県における新産業創出、中核産業育成の拠点である。そのため、地域プラネットフォーム施設をはじめ、産業支援施設、産業交流等施設(ホール、会議室等)、民間施設、インキュベーション施設等が整備されており、各団体及び各種施策間と連携が図られ、新規産業の創出と既存産業の活性化を支援していくとのこと。

### 1. 施設概要

名称	沖縄産業支援センター
所有	株式会社 沖縄産業支援センター 代表取締役社長 富山憲一
所在	沖縄県那覇市字小禄 1831 番地 1



敷地面積	24,100 m <sup>2</sup>
建築面積	3482.15 m <sup>2</sup>
延床面積	15,436.65 m <sup>2</sup>
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上7階（一部4階）
用途	事務所・会議室およびレストラン
供用開始	平成13年4月

## 2. 経営理念

株式会社沖縄産業支援センターは、第3セクターとしての公共性・公益性を自覚し、「沖縄の産業を育て、沖縄の産業人を育てる総合センター」としての沖縄産業支援センターのより高度な管理・運営を通じて沖縄県における中核産業育成・新産業創出支援を行い、沖縄の自立経済の実現に寄与する。

## 3. 設立の目的（センターの業務）

沖縄産業支援センターは、商工業者の事業活動を支援し、沖縄県産業の振興に寄与するため次の事業を営む。

1. 産業振興会館の建設及び管理・運営に関する事業
2. 不動産の売買、賃貸及び管理に関する事業
3. 会議室、研修室等施設の賃貸に関する事業
4. 情報提供サービスに関する事業
5. 経済、経営、科学、文化等に関する各種研修会、講演会の企画、誘致及び開催に関する事業
6. 新商品及び新技術の展示普及・実演に関する事業
7. 産業振興に関する教育、研修及び実習に関する事業
8. 食堂、喫茶店の経営並びに飲料水、食品および日用雑貨品の売買に関する事業

## 4. 所感

沖縄産業支援センターは、沖縄県における新産業創出、中核産業の拠点として機能を十分に発揮しており、本市の計画している産業支援センターの模範となるべきものであった。

# 会派視察報告書

平成 28 年 3 月 31 日

薩摩川内市議会  
議長 上野 一誠 様

むつみ会  
代表 大田黒 博



1. 調査年月日 平成 28 年 3 月 28 日(月)～3 月 29 日(火)
2. 調査地 大分県九重町・大分市
3. 参加者 大田黒 博 宮里兼実 福元光一 永山伸一
4. 調査事項 [九重町]  
\*九州電力(株)八丁原発電所  
(地熱とバイナリー発電の現状と取組について)  
[大分市]  
\*九州電力(株)新大分発電所  
(LNG 発電の現状と取組について)
5. 上記の概要は、以下のとおりでした。

## 記

- 1) 3 月 28 日(月) 大分県九重町  
九州電力(株)八丁原発電所  
説明者 西田真二所長、川副聖規副所長

八丁原発電所は、地熱発電所として国内最大 110,000 kW の認可出力である。  
八丁原発電所では、二相流体輸送方式を用い蒸気井から噴出した蒸気と熱水を混合状態のまま発電設備の近くに設置した気水分離器に導いている。  
導かれた混合流体はここで 1 次(高圧)蒸気と熱水に分離され、熱水はさらにフラッシュャーで減圧膨張された 2 次(低圧)蒸気を発生させている。

このようにして取り出された1次蒸気と2次蒸気でタービン・発電機を駆動して発電する方式をダブルフラッシュ方式と呼んでいる。

本方式は九電と三菱重工業株式会社が共同で世界に先駆け開発実用化したもので、昭和55年度機械振興協会賞を受賞した。

八丁原発電所は、約2km離れた大岳発電所からテレコン装置、データロガーなどを用いて、発電機出力、タービン回転数及び復水器真空度など、運転状況の監視、制御を行い無人化している。

#### 九州電力（株）八丁原バイナリー発電施設

九電では、八丁原発電所構内に八丁原バイナリー発電施設を設置し、平成16年2月に実証試験を開始した。

バイナリー発電方式とは、沸点の低い媒体を熱交換器で加熱・蒸発させ、その媒体蒸気により発電させる方式のため、従来の地熱発電方式では利用できなかった低温度域の蒸気・熱水での発電が可能となった。今回、熱源としては長期にわたる蒸気の生産により噴出勢力（温度・圧力）が減衰した蒸気井を有効利用している。

低沸点媒体としてペントンを利用して地熱バイナリー発電設備は、海外に多くの実績があるが、国内における実績がなかった。そのため、経済性及び機器の性能等の評価を目的として、実証試験を運転開始から約2年間実施した。

平成18年4月1日から営業運転している。

##### ・主要設備仕様

定格出力は2,000kWで、低沸点媒体としてペントン（沸点：36℃）を使用している。

幅訳16m×奥行き約24m×高さ約8.5mの寸法の中にタービン、発電機等の主要な機器が配置されており、非常にコンパクトなレイアウトとなっている。

## 2) 3月29日（火） 大分市

### 九州電力（株）新大分発電所

説明者 江頭真二副所長 肘岡暢夫技術グループ課長

新大分発電所は、石油依存度の低減、電源の多様化を推進し、年々拡大する電力需要に対して、電力の安定供給を図るために計画されたLNG（液化天然ガス）を燃料とするガス専焼火力発電所である。

発電設備については、熱効率が高く、起動停止が容易で負荷追従性に優れたガスタービンと蒸気タービンを組み合わせた九電では初めてのコンバインドサイクル発電方式（複合発電方式）を採用している。

燃料は、オーストラリアやインドネシア、ロシア等から輸入し、隣接して設置された大分エル・エヌ・ジー株式会社より受け入れている。

発電所からは、素晴らしい別府湾の眺望や、隣接するLNG基地等が一望できる。

## 発電所の概要

	1号系列	2号系列
発電方式	コンバインドサイクル発電	コンバインドサイクル発電
運転開始	平成3年6月	2-1号 平成6年2月 2-2号 平成7年2月
燃料	LNG	LNG
出力	115,000 kW/基×6	217,500 kW/基×4

	3-1号系列
発電方式	コンバインドサイクル発電
運転開始	平成10年7月
燃料	LNG
出力	245,000 kW/基×3

## 環境保全対策

発電所の運転に際しては、大分県及び大分市との間に公害防止協定を結び、周辺地域の自然環境を守っていくために万全を期している。

## 6. 所 管

今回むつみ会では、電力の安定供給に欠かせない発電所の研修として、八丁原地熱発電所と新大分火力発電所において、それぞれの発電の現状と取組について施設見学と説明を受けた。ベース電源の原子力発電所とともに今後本市においても環境に負荷のない火力発電所のあり方について再考する必要性を強く感じたところである。